



RENDEZ-VOUS

コレクタブルカーの 共同所有 サービス

憧れを1/8の金額で現実にできる 新しいクラシックカーの所有の形

text & photo : Hiromi Takeda / 武田公実

(写真右)展示会場にはバイク系モデル&タレントのYUさんなど、著名人もたくさん訪れたという。(写真左)ランデヴー社CEOの浅岡亮太さんと、この日たまたま会場を訪れていた同社の顧問、MOTOTECA星野雅弘さんの2ショット。



近年ではカーシェアリングがすっかり定着した傍ら、クラシックカーないしはコレクタブルカーの市場価格が継続的な高騰状態にあることは、もはや周知の事実。この二つの事実は、同じ自動車の世界にまつわるものながら、これまでの常識では決して交わることはないだろうと考えられていた。しかしこのほど、往年の名車たちを、複数の顧客で共同所有するバックアップを行うという意欲的なアイデアが事業化されることになった。発信源は、若き自動車愛好家たちが結集したスタートアップ企業「ランデヴー (RENDEZ-VOUS)」である。

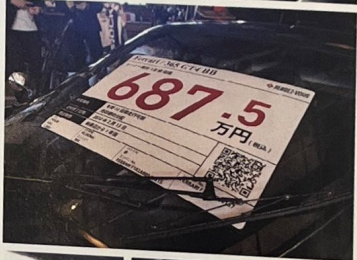
同社代表の浅岡亮太CEOが、クルマを愛する愛好家たちのために、8分の1の出費で共同所有できるサービスとして考案。その主軸として、4つのプランを打ち出している。一つ目は「所有プラン」。1台の車両を最大8人で共同所有するものである。登録名義はランデヴー側とされ、同社のガレージにて管理されることになっている。また売却する際には、保有している権利分の売却額が分配されることである。

二つ目は「体験プラン」。こちらは、毎年少なくとも一回は開催される予定の走行イベントに限り、運転が可能となるものである。3つ目は、コミュニティ形成と名車再生による文化の継承。共同オーナーを軸としたコミュニティを育み、ともにこれからのクルマの楽しみ方を提案してゆくという。また、朽ちかけているクラシックカーを後世に残していくため「名車再生プロジェクト」にも挑戦してゆく予定という。そして4つ目は「世界中にマイカーのある暮らしを」と銘打ち、これから日本だけでなく、世界中に販売したクルマの

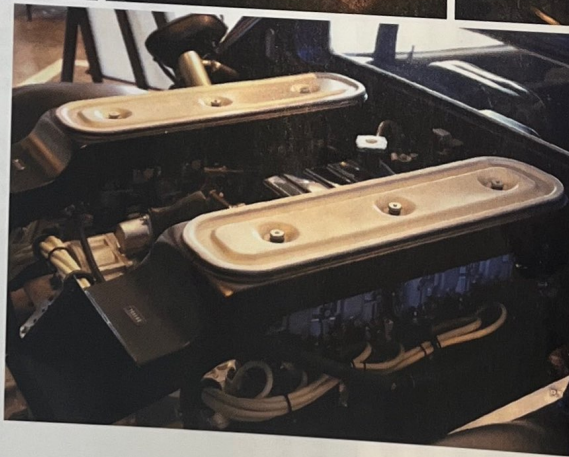


羽田空港の対岸、川崎のカフェに展示された365 BBは、もともと英国仕様として製作された有名な個体。1990年に日本に上陸したが、純正「Blu Dino」のボディカラーや各パネルのコンディションは素晴らしいものである。

RENDEZ-VOUS



名門「マラネッロ・コンセッショネアーズ」からデリバリーされた、この右Hの365BBは、インテリアもオリジナルを維持。また、純正ツールキットや取扱説明書などのドキュメント類も完備する。そんな個体に、総額の1/8に相当するプライスボードが置かれているのだから、インパクトは絶大と言えるだろう。昨年末の代官山のテスタロッサともども、スタッフたちは興味津々な人々の対応に追われていたようだ。



これまで、ありそうでなかった新サービスが、これから日本国内のクラシックカー／コレクターブーム文化にいくらかの影響を及ぼしてゆくのか？ 興味と期待が尽きないところである。

もちろん、まったく新しいスタイルのビジネスゆえに、例えば車両保管やメンテナンスなどについて不安を覚える購入希望者もあるだろうが、提携ガレージは国内でも有数の実績を持ち、規模・内容とも申し分のないスペシャリスト。さらに、このプロジェクトの趣旨と将来性に賛同した著名な投資家たちから、第三者割当増資および融資を受けたことにより、やはり顧客にとっては不安要素となりがちな資金面についても十分なバックアップ体制が整えられているという。

ためのガレージを作っていくという大きな計画なのだ。

ランデヴーが共同所有プロジェクト第1弾として選んだのは、2台のクラシック・フェラーリ。1989年式テスタロッサと、74年式365GT4/B Bである。テスタロッサは2022年11月12月に代官山「T・SITE」にて展示販売され、約2週間で全8名分の購入権を完売。一方365BBは、今年1月末から「TR EXカワサキ・リバーサイドカフェ」に置かれ、2月上旬現在で6人の購入者が決定したという。

筆者は両方の会場にお邪魔したのだが、展示されたのがいずれも素晴らしいフェラーリであること。そして、8分の1の顧客一人あたりの車両代金が掲げられたプライスボードのインパクトは絶大だったようで、通りすがりのカーマニアたちが、会場に詰めるランデヴーのスタッフに熱心な質問を投げかける様子が印象的だった。